

平成 29 年度予算審査特別委員会報告書

平成 29 年 3 月 16 日

大山町議会議長 野 口 俊 明 様

平成 29 年度予算審査特別委員会

委員長 岩 井 美 保 子



平成 29 年 3 月 3 日、平成 29 年第 2 回大山町議会定例会において設置された議員全員による平成 29 年度予算審査特別委員会に付託された予算の議案について、審査したので、会議規則第 77 条の規定により下記のとおり報告します。

記

1. 事 件 名

- 議案第 17 号 平成 29 年度大山町一般会計予算
- 議案第 18 号 平成 29 年度大山町土地取得特別会計予算
- 議案第 19 号 平成 29 年度大山町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算
- 議案第 20 号 平成 29 年度大山町開拓専用水道特別会計予算
- 議案第 21 号 平成 29 年度大山町夕陽の丘神田特別会計予算
- 議案第 22 号 平成 29 年度大山町国民健康保険特別会計予算
- 議案第 23 号 平成 29 年度大山町国民健康保険診療所特別会計予算
- 議案第 24 号 平成 29 年度大山町後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第 25 号 平成 29 年度大山町介護保険特別会計予算
- 議案第 26 号 平成 29 年度大山町農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第 27 号 平成 29 年度大山町公共下水道事業特別会計予算
- 議案第 28 号 平成 29 年度大山町風力発電事業特別会計予算
- 議案第 29 号 平成 29 年度大山町温泉事業特別会計予算
- 議案第 30 号 平成 29 年度大山町宅地造成事業特別会計予算
- 議案第 31 号 平成 29 年度大山町索道事業特別会計予算
- 議案第 32 号 平成 29 年度大山町水道事業会計予算

2. 事 件 の 内 容 平成 29 年度各会計当初予算の審査

3. 平成 29 年度予算の特徴

平成 29 年度は、町長、町議会議員の改選期にあたり、骨格予算としての位置づけである。一般会計予算は、総額 99 億 3,000 万円で、対前年度比 10 億 6,000 万円、9.6%の減となっている。

(歳入について)

町税収入は、14 億 4,372 万円で、対前年度比 1,441 万円、1.0%の増となっている。町

民税の年金特別徴収による増や、固定資産税の償却資産の増が主な要因である。

地方交付税は、46 億円で、合併算定替の縮減率が 3 割から 5 割となるものの、交付税算定の見直しなどのプラス要因があるため、対前年度比 1 億 5,000 万円、3.1%の減にとどまっている。

町債は、骨格予算として大きく減少しているが、今後増の可能性を持っている。
(歳出について)

義務的経費は、39 億 6,025 万円で、対前年度比 2 億 7,492 万円、6.5%の減となっている。二ケタの定年退職者に伴う人件費の減、臨時福祉給付金事業関係を主要因とした扶助費の減、平成 18 年度情報通信整備事業の起債償還終了を主要因とする公債費の減があげられる。

投資的経費は、7 億 364 万円で、骨格予算に伴い対前年度比 5 億 7,622 万円、45.0%の大幅な減となっている。

物件費等のその他経費も、対前年度比 2 億 886 万円、3.8%減の 52 億 6,611 万円となっている。

骨格予算ながら新規事業も計画されている。

地域おこし協力隊員が町内で居住、起業し、その事業内容が町の活性化に資することを要件とした、経費の一部助成金、地域おこし協力隊起業支援事業に 300 万円。

鳥取県中部地震により被害を受けた大山寺旧境内災害復旧事業に 1,006 万円。

町道中山インター線の調査委託料 1,100 万円。

「大山開山 1300 年祭」のプレ・イヤーへの対策費として、大山山麓協議会負担金 3,514 万円などである。

「大山開山 1300 年祭」のプレ・イヤー関係では、鳥取県西部地域を中心に事業が実施される予定で、大山においても、牛馬市の CG 映像や PR 動画など、日本遺産の魅力発信を含めた事業など、様々な取り組みが計画されている。

継続事業としても、町外からの U ターンを含めた地域の担い手、特に若者の移住定住の促進と確保を図る移住定住促進事業に 1,694 万円。対象児童を満 2 歳まで拡充する、家庭保育支援給付金事業に 1,800 万円。しっかり守る農林基盤交付金事業に 3,364 万円、坊領向原線の橋梁工事費 2 億 5,000 万円など多くが計上されている。

特別会計では、5,500 万円の歳入不足が見込まれる国民健康保険特別会計予算が、国保税の上乗せと一般会計からの法定外繰入金を想定した予算となっていること。

水道事業会計予算が、平成 29 年度から、これまでの 4 箇所の簡易水道が統合された予算となり、水道料金も統一されることになっていること。国民健康保険特別会計、国民健康保険診療所特別会計双方に関連して、目標どおりの成果が見られなかった大山診療所の人間ドックによる健診センター化対策として、一定年齢の方を対象にしていた人間ドックに、さらに対象年齢を設定した上でその受診を大山診療所に限定した、「大山ドック」と名付けた新たな取り組みが行われることなどがあげられる。

様々な行政課題はあるものの、大山町の資源を活かし、町民一人ひとりがいきいきと暮らすことができる環境づくりを目指して、平成 29 年度の予算執行にあたられたい。

4. 審査の経過及び審査の結果

付託を受けた 16 議案について、分科会方式により、平成 29 年 3 月 6 日・7 日・8 日の 3 日間審査を行うとともに、9 日に全体会を委員全員で行なった。

審査の結果、付託された 16 議案すべてを可とすべきものと決した。

5. 付 帯 意 見

- (1) 町民総健康づくり運動が 3 年目を迎える。健康で安心して暮らすまちづくりを目指して取り組む計画に対して、着実に成果があがるように求める。

中でも、大山診療所については、人間ドックによる健診センター化が始まっているが、経営の収支、実績があがるようさらに努力を求める。

- (2) 基金等の運用計画や運用状況について、今後は提示されるよう求める。

